

「災害の記録と瀬戸内市の防災」

2020年9月1日(火)～11月29日(日)

瀬戸内市民図書館

9月1日は「防災の日」です。これは、大正12年(1923)9月1日に起こった関東大震災にちなんで定められたものです。平成23年(2011)の東日本大震災以降、防災に対する関心が高まっています。災害が少ないと思われていた岡山県でも、平成30年(2018)7月豪雨により倉敷市真備町などで大きな災害が発生しました。瀬戸内市における災害の歴史をふりかえります。

◆瀬戸内市における戦後の主な災害

昭和20年 枕崎台風災害

昭和20年(1945)9月の枕崎台風による暴風雨は、邑久郡に大洪水をもたらし、敗戦直後の人々に大きな打撃を与えました。台風の豪雨により、9月18日、吉井川の堤防が行幸村八日市で約300mにわたって決壊しました。濁流は行幸、国府、美和、本庄、邑久、笠加、福田、今城、豊原、豊、太伯の各村に氾濫しました。低地全域が浸水し、浸水深は最大で3メートル以上に達し、浸水が10日以上に及んだところもありました。同年10月8日には阿久根台風の接近による暴風雨によって、再度、八日市の決壊箇所から氾濫しました。

これら二つの台風による連続的な被害については、戦後間もない混乱期のためか詳細な記録がないのですが、国土交通省の資料によると、吉井川流域における被害は死者79人、全壊・半壊家屋1837戸、浸水家屋3万2278戸、冠水田畑面積1万8561町となっています。

昭和51年 台風17号災害

昭和51年(1976)9月、台風17号の影響で岡山では8日午前から雨となり、11日まで大雨となりました。期間中の総雨量は県東部と南西部で多く、特に県南東部では900ミリを超え、年間総雨量の60～70%にあたる雨がこの期間に降るといふ、記録的な豪雨となりました。

被害の状況は別表のとおりです。とくに被害の大きかった3市11町(備前市・岡山市・笠岡市・日生町・吉永町・美作町・和気町・長船町・邑久町・牛窓町・矢掛町・作東町・熊山町・真備町)には、災害救助法が適用されました。

千町平野の水田は最長で8日間冠水したといふ、浸水の水深は1m以上に達するところもありました。東部の丘陵地帯では土砂崩れが発生し、避難命令が出された地区もあります。邑久町と牛窓町には、陸上自衛隊が派遣されました。

平成2年 台風19号災害

平成2年(1990)9月、秋雨前線が南下した影響で継続的な雨量があったうえ、19日には大型の台風19号が四国沖を進んで午後8時過ぎに和歌山県に上陸しました。岡山県ではこの前線と台風の影響で、12日から20日朝までの総雨量が200～500ミリに達しました。特に虫明では総雨量561ミリで、多いときには一時間に71ミリの雨量を観測しました。

この豪雨による被害は別表のとおりです。とくに被害の大きかった、1市4町（備前市・和気町・邑久町、牛窓町、長船町）に災害救助法が適用されました。千町川と干田川の排水ポンプが作動したため、昭和51年9月の洪水よりは浸水範囲が狭まっています。

この災害では千町川と干田川流域の被害が大きかったため、国直轄事業と一体化した両川の抜本的な河道改修の早期完成を図る目的で、河川激甚災害対策特別緊急事業が同年度から着手されました。

平成16年 台風16号災害

平成16年（2004）8月30日、鹿児島県に上陸して九州を縦断した台風16号は、西日本を中心に大雨をもたらしましたが、同時に瀬戸内海沿岸には高潮被害を生じさせました。台風の気圧効果による吸い上げ効果と吹き寄せ効果、さらには大潮期間の満潮とが重なったことにより、瀬戸内海沿岸各地できわめて高い潮位が発生したのです。

台風16号による岡山県内のおもな被害は、死者1人、重傷者3人、軽傷者13人、全壊家屋1戸、半壊家屋1戸、一部破損家屋608戸、床上浸水家屋5757戸、床下浸水5127戸などです。被害の大きかった5市4町（岡山市・倉敷市・玉野市・笠岡市・備前市・牛窓町・邑久町・日生町・寄島町）では、災害救助法が適用されました。

邑久町では虫明から尻海の敷井にかけて、牛窓町では牛窓と鹿忍の沿岸地域で高潮被害を受けました。床上浸水は邑久町で122棟、牛窓町で259棟にものぼりました。

◆水害の記録資料

瀬戸内市における災害の歴史では、水害が圧倒的に多くなっています。江戸時代後期くらいから、災害が起こると村ごとに被害状況などが記録されるようになり、そのいくつかは現在まで残されています。ここでは、邑久町地域に残された水害の記録資料をひとつだけ紹介します。

向山村の洪水被害記録帳

「大洪水痛見分帳」 明治4年（1871）・永山正文家資料（瀬戸内市蔵）

明治4年（1871）5月の暴風雨で、「古来まれなる洪水」と言われるほど、岡山藩内各地で被害を出す洪水となりました。邑久郡では、死者6名、全壊・半壊した家屋や納屋等が876軒にのぼるなど、大きな被害が出ています。

この記録帳によると、向山村（現在の邑久町向山）では28軒が被災し、うち21軒が床上4寸（約12cm）～2尺8寸（約85cm）の浸水となっています。そのほかにも、家財道具、醤油・米・漬物などの食料、麦わら、燃料、肥料など、流失したり、濡れて使いものにならなくなったものが書き上げられています。

※『邑久町史史料編（下）』430～434ページに本文が紹介されています



昭和51年9月 台風17号災害の被害状況（人的・家屋被害）

（昭和51年10月27日現在）

		牛窓町	邑久町	長船町	日生町	備前市	岡山市	倉敷市	岡山県合計	
人的被害	死者				3	3	1		19	
	行方不明									
	負傷者	軽傷1		重傷1 軽傷5	重傷7 軽傷7	重傷16 軽傷20	重傷2 軽傷3	重傷1 軽傷5	重傷45 軽傷71	
住家の被害	全壊	戸数	4	24		15	34	6	5	143
		世帯数	4	25		15	34	6	5	147
		人員	9	51		47	128	12	16	476
	流失	戸数					13			14
		世帯数					13			14
		人員					43			45
	半壊	戸数	19	47	195	30	88	11	19	520
		世帯数	19	47	195	30	88	11	19	521
		人員	66	116	752	123	348	33	67	1,939
	床上浸水	戸数	109	456	210	293	789	1,455	52	4,708
		世帯数	109	456	210	293	789	1,455	52	4,712
		人員	366	1,882	842	1,059	2,900	5,164	216	17,335
	床下浸水	戸数	607	1,526	800	875	1,172	14,267	2,989	30,159
		世帯数	607	1,531	800	875	1,172	14,267	2,989	30,165
		人員	2,026	5,074	3,094	3,240	4,359	45,668	10,461	102,598
	一部破損	戸数	31	84		29	76	11	17	594
		世帯数	31	84		29	76	11	17	594
		人員	110	148		106	290	44	34	2,009
	計	戸数	770	2,137	1,205	1,242	2,172	15,750	3,082	36,138
		世帯数	770	2,143	1,205	1,242	2,172	15,750	3,082	36,153
		人員	2,577	7,271	4,688	4,575	8,068	20,921	10,794	124,402
非住家	全壊戸数	45	1		7	1	5		131	
	半壊戸数		7	12			3		39	
	一部破損				3			14	109	

岡山県編『昭和51年9月台風17号災害誌』（1977年、岡山県）より作成

平成2年9月 台風19号災害の被害状況（人的・家屋被害）

（平成2年11月15日現在）

		牛窓町	呂久町	長船町	和気町	日生町	備前市	岡山市	岡山県合計	
人的被害	死者							5	10	
	行方不明									
	負傷者	軽傷1			重傷1 軽傷1		重傷1	重傷1 軽傷4	重傷3 軽傷7	
住家の被害	全壊	戸数	1			1	1	3	10	
		世帯数	1			1	1	3	10	
		人員	1			4	0	16	33	
	流失	戸数								
		世帯数								
		人員								
	半壊	戸数	3		11	19				36
		世帯数	3		11	19				36
		人員	6		35	54				102
	床上浸水	戸数	159	183	163	438	1	458	81	1,619
		世帯数	159	183	163	438	1	458	81	1,615
		人員	522	636	595	1,455	7	1,408	288	5,313
	床下浸水	戸数	589	1,302	393	582	25	657	649	6,377
		世帯数	589	1,302	282	582	25	657	649	6,352
		人員	2,034	4,517	1,485	1,985	83	2,136	2,343	20,973
	一部破損	戸数	2					2		69
		世帯数	2					2		67
		人員	9					7		220
	計	戸数	754	1,485	567	1,040	26	1,118	733	8,111
		世帯数	754	1,485	567	1,040	26	1,118	733	8,080
		人員	2,572	5,153	2,115	3,498	90	3,551	2,647	26,581

岡山県地域振興部消防防災課編『平成2年9月台風19号災害誌』（1992年、岡山県）より作成

瀬戸内市の災害年表(江戸時代～昭和20年)

発生日月	内容(邑久郡史より記述抜粋)
寛永3年(1626)	四月より八月まで百日の間旱魃。(平島家日記)
寛永4年(1627)10月4日	大地震家潰れ、九月迄一ヶ月二三度ツユ無し、土蔵不残潰れ、大風雨高潮ノ潮ヨリ高キコト五尺余、(神崎村記録)
寛永19年(1642)夏	諸國に稲作悪く、米価日々に騰り、餓死するもの数え難し。
承応元年(1652)夏	五月十一日より八月五日まで旱魃、其内かたびら雨二度降る。(平島家日記)
承応2年(1653)夏	五月おりおり雨降り、殊の外稲枯れ申、取分け糯稲枯れ多し。(平島家日記)
承応3年(1654)7月19日	備前洪水にて破損所おびたゞし、(略)今年の旱天洪水は我等一代の大難にて候。(池田家履歴略記)
明暦元年(1655)	水禍の承応三年の翌明暦元年は、備前各地又もや大饑饉なり。
寛文9年(1669)	大がいの気はやり、在郷者は大方十日、十五づゝわづらい、又身をもつ人又町人など一家に十人、十五人あり候へば薬などははがまにてせんじ、てんもくにくみのみ申。(平島家日記)
寛文10年(1670)8月23日	大風雨、民家倒壊するもの多し。(神崎村記録)
寛文11年(1671)1月18日	正月十八日辰の刻大地震ふ。(平島家日記)
延宝元年(1673)5月14日、18日、21日	延寶元年五月十二日より降雨、十四日は殊に甚だしく巳の刻、吉井、朝日両川の堤防決潰す。邑久郡流家一軒、潰家三十四軒、救助米十八石八斗。(池田家文書)
延宝2年(1674)4月12日、5月28日、6月14日、同28日	四月十二日大雨洪水、五月二十八日洪水、六月十四日夜洪水、同廿八日大水出申。(平島家日記)
延宝2年(1674)8月27日	上寺村八幡宮境内ノ松、廿七日暴風ノ爲二三十本折れ、(略)俣野助市へ申渡シ伐セ置、御用木二使用スベキ旨老中指令。(池田家評定留)
延宝3年(1675)春	諸國大飢饉にして餓莩道に滿つ。備前藩は『洪水物流法』を定む。邑久郡飢人閏四月朔日ノ同三日迄御扶持延びて二萬四千貳百四人。(留帳)
延宝7年(1679)7月10日、21日	備前大風雨にて諸所破損す(池田家履歴略記)
延宝8年(1680)5月26日	雨降り洪水度々出、七月に入り廿六日迄雨天。(平島家日記)
延宝8年(1680)夏	七月二十六日より天氣に成り、十二月二十日迄、日照り、合百七十日日照り稲大に枯れ取り實無し。(平島家日記)
貞享3年(1686)8月7日	大風高潮來り、家屋潰る。(神崎村記録)
貞享4年(1687)9月9日	大風雨洪水、(略)『神崎村記録』に、「九月九日大風高潮、常の潮より高きこと五尺」と見ゆ。大風吹き、山々大木根こけ、中折れ、千手山大松三ヶ一折れ、大潮満ち、牛窓家潰れ、舟破損多し、大勢死人あり米取実なし。(平島家日記)
元禄6年(1693)夏	五月九日に雨降り七月四日迄雨降り不申、近年珍らしく照り申候。(平島家日記)
元禄8年(1695)7月21日	大風雨、家潰れ木倒る、浦々破損殊の外なり。(神崎村記録)
元禄16年(1703)7月28日、8月29日	『神崎村記録』に、「七月廿八日大風雨、潰家に出扶持方一軒につき米五升づゝ給はる。」と。八月廿九日再び大風雨にて同晦日迄吹続き洪水となる。」
宝永元年(1704)9月	七日尻海出火、家数三十一軒焼失(池田家留帳)
宝永3年(1706)夏	『神崎村記録』に、『寶永三年四月より八月までの百日の間旱魃、八月九月の間に七度の洪水あり。稲作無毛、吉井川決潰し射越の北岸及上寺山麓に土砂堆積す、』と
宝永5年(1708)6月22日	大風洪水あり、旭川常水より増すこと一丈八尺五寸、砂入田畠二百七十町三反六畝二十三歩、水入田畠六百九百四十町四段二十歩。(池田家類纂)
正徳2年(1712)6月2日、7月2日	六月二日備前、備中の領地大風洪水、七月二日再び出水あり、
享保元年(1716)6月8日	備前、備中大洪水あり。荒蕪田畠九萬七千九百九十石餘に及ぶ。(池田家類纂)
享保6年(1721)7月11日、15日	大風洪水。『池田家履歴略記』に「七月十一日在町共決潰家二千餘軒、死人四人あり。(略)」と。
享保14年(1729)9月14日	八月十九日夜より廿日迄大風、奥浦堤・小津堤共切申候・稲大分痛み、九月十一日より雨降り同十四日迄十四日大しけ雨洪水、近年に覚えぬ大雨。(平島家日記)
享保17年(1732)9月	西南諸國及び中國に蝗夥し。飢人多く、幕府は關東の米庫を開いて、賑恤に充つ。
元文3年(1738)5月9日	六ツ半より四ツ前迄大風、(略)潰家邑久郡二百八十軒、死者も有之候。(平島家日記)
元文5年(1740)7月10日	洪水、百年にも覚えぬ大水と申。(平島家日記)
延享2年(1745)6月2日	『備前孝子伝』に、「延享二年の夏洪水なり、邑久郡内多く水の爲に田地をそこなふ。」と記す
宝暦10年(1760)8月	あまこつき稲かれ、穂いです。(平島家日記)
明和元年(1764)7月17日、8月4日	『平島家日記』に、「七月十七日洪水」と記し。『仁科家文書』には次のごとし「明和元年申八月四日暮時洪水」
明和7年(1770)、同8年(1771)	明和7年早、同8年亦早。(平島家日記)
安永元年(1772)8月20日	備前以東の諸國は暴風襲來、備前は洪水なり。八月十三日より雨降出、二十日曉大風雨洪水致し破損多し。(平島家日記)
安永7年(1778)1月18日	正月十八日以来、数度の地震と雷雨にて人心恟々たり。
安永7年(1778)6月28日	六月二十二日の夕大白雨、雷所々へあまり、廿八日夕大白雨、曉より洪水、当荒大分出來、雪きびしくてさて恐ろしく。(平島家日記)
天明3年(1783)11月	飢人、闕下に集りて米価の低減方を愁訴す。松葉團子、藁團子、土粥を食う。(平島家日記)
寛政元年(1789)4月16日	夕ハツ時大地震揺り、半時計り程動く事甚し。(平島家日記)
寛政元年(1789)6月18日	『岡崎家文書』に、「六月洪水にて福岡村大川堤押切、千町表一面に大水馳込、乙子北堤を切抜、溢水を引落し人家人命に異常無きを來す。」と記す。
寛政2年(1790)夏	私領分備前國備中國之内当夏照統、田畑致旱魃、(留帳)
寛政4年(1792)7月26日	備前大風國中大に破損す。(池田家履歴略記)
寛政7年(1795)8月28日	八月廿八日夕大雨洪水にて桜田往來七十間餘半切、(略)所々堤切流人人死等有之西大寺川へ死人牛馬流、家流其数を不知。(平島家日記)

江戸時代

	発生年月日	内容(邑久郡史より記述抜粋)
江戸時代	寛政11年(1799)8月19日、11月27日	大暴風雨あり、損木多数を出す。(神前神社記録)
	享和元年(1801)3月4日	大地震。(平島家日記)
	文化5年(1808)5月29日、6月29日	五月廿九日朝六ツ時より大雨洪水、六月二十九日又洪水。
	文化7年(1810)春	牛窓村一円熱病流行仕、追々病死入百餘人に及び、既に同所詰御郡医者東條岐奄義も病死候。(平井家奉公書)
	文化8年(1811)5月25日	大雨洪水。田畑砂入堀流水押共凡二千九千四百四町餘、此土地高凡五萬五千九百三十六石余。(池田家類纂)
	天保4年(1833)一同8年(1837)	文政の季年以降農作物の不況打続き、而かも天保四年に至り稀有の凶作を來せり。
	天保5年(1834)夏	六月中旬より照焼き追々用水不自由に相成。七月初頃より山分池縣り、井関縣りも次第に減水、(略)近來稀なる旱魃と被存候。(留帳)
	天保7年(1836)6月、7月	分秧以來天候不順にして六月、七月の兩度吉井川決潰。加ふるに八月には暴風にて米穀実らず、物価騰貴、飢人多し。
	弘化3年(1846)	大風高潮にて鹿忍塩濱潰れ濱に相成。(撮要録)
	嘉永6年(1853)夏	五月十九日と廿日迄九十日之間日照続、(略)稀成大旱魃。(平島家日記)
	安政元年(1854)11月5日	晩刻より大地震、神崎大水門の饅頭形崩壊、土地陥落のため人家倒潰するもの多し。
明治時代	明治4年(1871)5月18日	五月十七日馳雨頻りに至り、翌十八日烈風を加え夕刻より増水。吉井川の東岸福岡村の堤防を決潰し、一湯千里の勢を以て長船・服部・福里・土師・豆田・箕輪(略)の諸村に氾濫す。
	明治9年(1876)夏	春以來の旱魃にて挿秧に苦しむ。
	明治12年(1879)5月22日	岡山縣下にコレラ病蔓延、罹病者九千八百十四、内死亡者四千四百四十五人を算し、岡山市内の小学校は悉く休校す。
	明治13年(1880)7月1日	岡山縣下の三大川大洪水あり、溺死者七千人、家屋流失七百九十四戸、浸水八千八百三十四軒、田畑荒廃二千七百七十六町歩に及ぶ
	明治16年(1883)、同19年(1886)	旱魃、この旱魃のために小作問題について福岡の地主小作兩者衝突、この衝突は砂藪論に入る、(東原水村記)
	明治18年(1885)3月	風波のために牛窓町字中浦海岸百二十間及び西町海岸四間破壊。
	明治18年(1885)8月6日	八月三日より五日に至る迄微雨降り続き、(略)午後五時頃微雨。翌六日午前七時頃より吉井川漸く水高を増し、(略)被害地は長船村外九ヵ村にして、畑土を流し生毛を損す。
	明治25年(1892)7月23日	七月二十二日黄昏頃より良位に暴風起る。風勢加わるにつれて雨を交え、翌二十三日には風雨共に猖獗を極む。
	明治26年(1893)10月14日	十月十一日以来の豪雨は十四日に至り諸川に漲る。其の午後十二時吉井川平水より増量一丈五尺、行幸村地内の堤防決潰の寸前、百万防禦して漸く堰止む。
	明治30年(1897)秋	浮塵子発生、稲作の被害おびたどし
	明治32年(1899)7月10日、22日	七月八日の暴風は翌九日暴雨を加う。十日午後二時吉井川の水量一丈一尺、遂に氾濫す。其の二十二日の暴雨にて、吉井川また氾濫す。
	明治32年(1899)8月28日、10月10日	八月廿八日朝來曇天、日没頃東南より暴風雨襲來(略)十月八日の豪雨は翌九日暴風を加え、十日午前八時濁水低地に氾濫す。
	明治34年(1901)夏	大旱。(鷲峰智恭僧正伝)
	明治44年(1911)6月18日、8月15日	兩度の暴風高潮のために、長濱湾開墾工区の一部破壊す。
	明治45年(1911)夏	初夏以來雨降らず、六月二十九日遂に田用水の枯渴を來す。(略)深酷なる旱魃のために米価は一石二十五円五十錢に騰貴す、蓋し未聞の事也。
大正時代	大正4年(1915)9月9日	九月八日より翌九日午前四時に至る暴風は、風速二十七米恰も水稻出穂期也。長濱湾開墾の大手堤防決潰す。
	大正5年(1916)6月26日	六月二十五日、二十六日の兩日岡山縣下に豪雨あり、美作地方にては二十年來の大洪水と云う。雄川橋、永安橋流失。
	大正7年(1918)7月11日	岡山縣下洪水、蘆田橋、雄川橋、永安橋流失す。
	大正7年(1918)8月一同8年(1919)3月	悪性感冒流行、死者続出人心恟々、その蔓延地の小学校は休業し、人々はマスクを掛く。
	大正13年(1938)夏	邑久郡の旱害状況は東南の山間部池掛地方は全然用水涸渇し、池底白土なれる所多く、(略)既に手の施し様なき状態(農家の友)
	大正14年(1925)5月23日	午前十一時十分震動、時計の振子は止り、人は戸外に飛出る。八十年振りの地震と云ふ。
昭和時代	昭和2年(1927)3月7日	午後六時二十分より、一分三十秒の間地震う。何れも戸外避難す。
	昭和6年(1931)5月28日	午後三時六分間大降雹、雹の大き三センチ二乃至五、重さハグラム、農作物の被害甚し。
	昭和8年(1933)夏	鹿忍・牛窓・長濱・裳掛・鶴山・大宮・朝日地方は畑作が主要農産物で、南瓜の如きは生計上最も重要な地位にあるものが、全滅に瀕してゐる。(昭和八年七月廿七日山陽新報)
	昭和9年(1934)9月21日	九月十八日朝來天候激変、十七日よりの降雨は、十八日午後十一時三十分より豪雨となる。(略)二十一日には風速実に二十八間に達し、牛窓港の如きは前日の潮位より一米〇三高く、終に諸川氾濫す。
	昭和11年(1936)6月2日	午前一時五十分、大宮村下阿知字竹の内後池決潰す。堤塘決潰の原因は数日來の降雨にて外部より崩潰し初めたるものゝ如し。
	昭和14年(1939)、同15年	昭和十四年八月旱魃のため米収激減、一面日華事變中のことゝ強制的に米の節約を励行す。
	昭和18年(1943)9月19日	午前十時颯風襲來のために出水。
昭和20年(1945)9月18日、10月7日	カロリン附近に起こりたる颯風は、(略)翌十八日行幸村八日市地区吉井川堤防二百米を決潰し邑久郡山北部一体を泥海とす。この水禍より二十日後の十月七日夜半、連日の増水せる吉井川は(略)再び行幸村以南を水中に没せり。	